

H30 年度「ともの家」事業計画

1. はじめに

・法定施設に移行してまる 10 年。歩みを止めたら、存続の危機に陥るのではないかと
思われるほど、ギリギリの運営をしていた無認可時代が、遙か遠く、そして懐かしい
思い出に変わってきました。年に 1 回市役所への補助金アップの陳情、賞与はささえ
る会のみなさまからの会費より頂いていました。仲間も保護者も職員も対等に、みん
なで支え合っていました。

18 年以降、制度が整備され、サービス提供事業所と呼称も変わりました。気が付けば
「制度をいかに利用していくか」に心を砕くようになり、そのノウハウや情報を得る為
の研修が主体になり、事業所もそれを求めるようになっていきます。「ともの家」でも、
職員の半数が、制度移行後に入職し、それが当たり前の環境の中で実践を行うよう
になっています。

その中で、作業所が本来持っていた柔軟な運営や専門性「仲間たちの声なき声を聴き、
多様な支援を創意工夫する」が失われつつあるという危惧を抱いています。

近未来には世代交代が想像できます。無認可から法定へ、両面の良さを仲間たちのた
めに発揮し、型に囚われない発想力を発揮できる職員の資の向上が課題です。

・開所から 30 年の節目を迎えます。仲間とともに、思い出に残る品物の作成を行いま
す。また、30 年間お世話になった、地域のみなさまとの関係を深め、お役立てるこ
とを探っていきたいと思います。

2. 事業全般

・就労継続 B 型事業は、新店舗開所より 2 年が経過しました。開店当初の賑わいは落
ち着きましたが、建設にあたり掲げたコンセプト達成に近い成果を上げています。

仲間たちの働く場として、継続的に経営できるお店作りに努めてきます。

・生活介護事業は、登所する仲間の人数も多く、年齢も様々な中で、働き方や内容の
変化が求められています。ひとりひとりの仲間の要求を聴き、実践できる職員の資質
向上と環境整備を重要な柱とします。

・共同生活援助事業（グループホーム）は、仲間やその家族の状況に合わせて、体制
を組み替えてきました。今後も、その都度対応できるよう、体制を整えていきます。

・財政状況

収入) 日割り単価方式による不安定要因は続いていますし、3 年ごとの改定による報
酬単価の変動に一喜一憂する状態にも変化はありません。新たな利用希望者もいな
い為、収入増の見込みありませんが、わずかな繰越金を施設整備積立等に充当して

いますので、直近で緊迫した状況には至りません。開所日を増やすなど、経営努力が必要な時期は近いと想像します。

支出) お店と「SUN」の借入金返済は、計画通り進めていきます。職員給与に関しては、昨年同様に、処遇改善費を基本給に組み入れ、底上げに努め、繰越金を年度末賞与に充てます。

- ・災害対策

過去 2 年の防災対策とその実践を振り返りながら、防災訓練を定期的 to 実施し、不安材料を取り除いてきます。また、BCP 本来の「事業継続計画」の学習を進めていきます。

予算

リフト車の購入	400 万円
職員駐車場の確保のための土地購入	1500 万円
基本給の見直し	